

編集後記

日本農学アカデミー会報第44号をお届けいたします。はじめに、担当である中嶋の不手際で1か月遅れの発行となったことを深くお詫びいたします。また、先生方には年末年始のお休みの時期にもかかわらず、執筆の労をお取りいただいたことに心より感謝いたします。

本号の論壇においても、先生方にはご自身の日ごろの教育研究活動に基づいた幅広い議論を展開していただきましたが、それを掲載するにあたり三部構成として整理させていただきました。

第1部では「農学における社会課題」として、土井先生、桐先生、大浦先生の論考を紹介いたします。土井先生には、施設園芸の生産活動における気候変動への適応策と緩和策について詳しく解説いただきました。桐先生には、農業水利施設を中心に農業基盤の更新と防災減災への貢献に係る課題を整理いただきました。大浦先生には、企業の森事業を対象に森林・山村地域における関係人口の形成過程を特に企業活動に焦点をあてながら多角的に分析していただきました。

第2部では「農学教育研究における新たな取り組み」として、小沢先生、杉山先生、松山先生の論考を紹介いたします。小沢先生には、2024年4月に山形県で開学した東北農林専門職大学でのカリキュラムと実践者育成への挑戦について説明していただきました。杉山先生には、長期間にわたり蓄積してきた木材標本をデジタル化し、そのデータ分析のDX化への取り組みとAI活用の可能性を述べていただきました。松山先生には、農林水産省が進める「知」の集積と活用の場活動での産学官連携協議会会长としての経験を踏まえて、農林水産・食品産業分野でのオープンイノベーションの課題と可能性を示していただきました。

第3部では、「農学の研究活動とその評価」として渡辺先生、東原先生、渡部先生の論考を紹介いたします。渡辺先生には、ご自身の専門分野である植物病理学での経験を例にあげながら、研究活動により生み出される成果が国境を越えて広く伝播し公共財としての意義を持つ場合における行動と評価を巡る課題を科学技術外交の視点から問い合わせていただきました。東原先生には、昨年全国農学系学部長会議会長に就任され、同会議で議論されてきたことを踏まえて、過去から現代にかけて農学が取り組んできた課題とその解決に向けた学問としての発展の経緯を確認しながら、研究力と評価軸を再検討すべきことを提起いただきました。最後に渡部先生には、パストールの4分類科学の枠組みを手掛かりにし、ご自身の研究活動を振り返りながら、改めて農学における基礎研究と応用研究の境界を論じていただきました。

本会報の論壇では、自由にテーマを設定して論じていただくことを旨にして先生方へ原稿を依頼しております。ただ今回、編集側としては期せずしてですが、三部構成でご紹介した方がよいのではないかと考えました。論壇の論考は毎回どれも読み応えがあることは言うまでもありませんが、今回は特に全体を通してお読みいただき、現代の農学が直面する幅広い

事象とそれを踏まえての挑戦すべき未来を多角的にお考えいただく機会になればと思った次第です。

あらためて執筆いただいた先生方に感謝申し上げたいと思います。(中嶋康博)